

全学共通カリキュラム 運営センター

CENTER for the
UNIVERSITY-WIDE
CURRICULUM



Contents

全学共通カリキュラム運営センターの歴史 3

全学共通カリキュラム運営センターの組織 4

 組織と所管業務 4

 全学共通カリキュラム運営センターと全学共通科目 6

 全学体制での全学共通カリキュラム運営センター支援 7

カリキュラムの構成 8

 全学共通科目:言語系科目 8-9

 全学共通科目:総合系科目 8-9

 グローバル教養副専攻 10

 RIKKYO Learning Style と全カリ 10

FD&広報 11

全学共通カリキュラム運営センターの歴史

1991 年	7月	● 大学設置基準の大綱化
	10月	● 「全学共通カリキュラム検討委員会」発足
1994 年	12月	● 「全学共通カリキュラム運営センター」発足
1995 年	3月	● 一般教育部廃止(三分野の教員は学部へ)
	4月	● 大学教育研究部発足(1998年3月まで) 「全学共通カリキュラム運営センター」による一般教育課程運営の開始
1997 年	4月	● 「全学共通カリキュラム」全面实施
1998 年	3月	● 大学教育研究部廃止
2005 年度		● 『立教科目』－建学の精神から学ぶ科目展開－ 文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」採択
2009 年	4月	● 全学共通カリキュラム運営センター組織改編
2010 年	4月	● 言語系科目カリキュラム改編
2012 年	4月	● 総合系科目カリキュラム改編
2016 年	4月	● RIKKYO Learning Style 開始 「全学共通カリキュラム」から「全学共通科目」へ
2017 年	4月	● グローバル教養副専攻開始
2020 年	4月	● 言語A新カリキュラム開始
2024 年	4月	● 言語B新カリキュラム開始、言語A自由科目改編

全学共通カリキュラム運営センターの組織

組織と所管業務



役職と職務

- **全学共通カリキュラム運営センター部長**(全カリ部長)
全カリ運営センターを代表し、その運営を統括します。専任教員の中から総長が任命し、全カリ委員会の委員長を兼務します。さらに大学の最高意思決定機関である部長会に出席し、大学全体の校務に参与します。
- **全学共通カリキュラム運営センター副部長**(全カリ副部長)
全カリ部長を補佐し、全カリ部長に事故のあるときはその職務を代行します。専任教員の中から全カリ部長と協議の上、総長が任命し、教務、自己点検・評価、FD、その他全カリ部長が指示する事項を担当します。教務委員長、グローバル教養副専攻構想・運営サブチームリーダーも兼務します。
- **言語系科目／総合系科目構想・運営チームリーダー**(言語／総合チームリーダー)
言語系科目構想・運営チーム(言語チーム)または総合系科目構想・運営チーム(総合チーム)を代表し、当該チームの運営を統括します。言語チームリーダーは、外国語教育研究センター所属の専任教員の中から全カリ部長と協議の上、総長が任命します。また、総合チームリーダーは、専任教員の中から、全カリ部長と協議の上、総長が任命します。
- **言語系科目／総合系科目構想・運営チームメンバー**(言語／総合チームメンバー)
言語チームメンバーは、各言語教育研究室主任が兼務します。主任は、所属する言語教育研究室の室員の互選により選出し、全カリ委員会の議を経て総長が任命します。総合チームメンバーは、専任教員の中から、全カリ部長と協議の上、総長が任命します。

所管業務

- **言語系科目／総合系科目構想・運営チーム**
チームリーダー、チームメンバー、陪席の全カリ部長、全カリ副部長によって構成され、言語系科目、総合系科目のカリキュラム編成や運営、予算執行などを所管します。
- **グローバル教養副専攻構想・運営サブチーム**
全カリ部長、全カリ副部長、言語チームリーダー、総合チームリーダーによって構成され、必要に応じて関連部局を交え、グローバル教養副専攻の管理運営、教務事項、コース提供部局との調整などを所管します。
- **言語教育研究室**
英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語、諸言語の言語教育研究室があり、それぞれ主任および室員が配置されています。また、各言語教育研究室は、言語チームの指示により、教員配置や教務事項、授業方法・授業形態の立案、予算の立案ならびに執行、担当者連絡会・FDセミナー等の企画と実施を担当します。
- **総合サポートグループ**
全カリサポーター(学部選出、総長任命)で構成され、主に総合チームの指示により、教育方法の研究開発、教員配置、教務事項に関する事項等について総合チームメンバーに必要情報を提供し支援します。また、全カリサポーターは、人文学系サポートグループ、自然科学系サポートグループ、社会科学系サポートグループ、スポーツ人間科学系サポートグループのいずれかのサポートグループに属します。全カリ運営センターの求めに応じて、言語チームの活動を支援する場合があります。

主な会議

- **全学共通カリキュラム運営センター委員会**(全カリ委員会)
全カリ部長、全カリ副部長、全カリ委員(言語チームリーダー、総合チームリーダー、各学部長、外国語教育研究センター長、教務部長)で構成し、全カリ運営センターの所管事項、全カリ委員会の発議による事項を決定します。
- **コア会議**
全カリ部長、全カリ副部長、言語チームリーダー、総合チームリーダーによって構成され、全カリ運営センターにおける審議事項を決定し、必要に応じて全カリ委員会への上程を了承します。
- **教務委員会**
全カリ部長、全カリ副部長、言語チームリーダー、総合チームリーダーによって構成され、全学共通科目における教務事項を決定します。
- **言語系科目／総合系科目構想・運営チームミーティング**
チームリーダー、チームメンバー、陪席の全カリ部長、全カリ副部長によって構成され、言語系科目・総合系科目のカリキュラム編成や運営、予算執行などを決定します。
- **グローバル教養副専攻サブチームミーティング**
全カリ部長、全カリ副部長、言語チームリーダー、総合チームリーダーによって構成され、必要に応じて関連部局を交え、グローバル教養副専攻の管理運営、教務事項などを決定します。

全学共通カリキュラム運営センターと全学共通科目

立 教大学では1874年の創立以来、幅広い教養と専門性を養うリベラルアーツ教育に力を入れてきました。一般教育部相当の一般教育課程と学部相当の専門教育課程の区別という大学設置基準の制約はあったものの、時代の移り変わりの中で、その都度、学生の要求や学部の要請を受けて、教養のあり方を全学で考え、教職員が力を合わせて学生に向き合ってきました。

1991年に大学設置基準が大綱化され上記区分がなくなり、大学の個性に即した学士課程教育の再編成が迫られたのを好機として、立教大学は一般教育部と全学部による討議の結果、専門学部と教養教育の連携をさらに充実させるための大幅な改革に取り組み、教養教育の再生・強化をはかる決断をしました。そして、一般教育部を廃止してその教育を学部にも再配置し、立教大学のすべての教員が教養教育に責任を持ち、その上で専門教育に臨むという教育体制を取るようになりました。4年間にわたる立教独自の新たな学士課程教育の立ち上げを行なったのです。その際、その改革の象徴として学士課程教育の目標を、従来の「教養ある専門人の育成」から「専門性ある教養人の育成」へと転換しました。ここに言う「専門性ある教養人」とは、グローバルな課題と社会的要請に対応し、広い視野に立って課題を発見し、専門的知見を柔軟に適用してそれを解決できる能力をもつ人間です。

この改革を受け、「全学共通カリキュラム運営センター」（以下「全カリ運営センター」）は、全学の教養教育を担う立教独自の組織体として1994年12月に発足しました。その顕著な特徴は、立教の全教員が科目担当者であり、全学部が代表者を送り運営の責任を負うところにあります。全カリ運営センターは、「学部の違いを超えた立教大学としての教育」に必要な科目配置や教員配置を常に点検し、新しいカリキュラムを開発し続ける運動体なのです。全

カリ運営センターにおける足かけ3年にわたる熱心な討議の結果、1997年度から『各学部教育理念と教育プログラムを根底に置きつつ、全学的な共通の理念と全学的な体制の下で展開する科目群』（21世紀をめざす立教大学の全学共通カリキュラムについて―全学カリキュラム検討委員会答申―より）として「全学共通カリキュラム」（以下「全カリ」）がスタートしました。全カリ発足と「専門性ある教養人の育成」という新しい学士課程教育の目標が相俟って、教養と専門を融合する立教リベラルアーツ教育の理念が再認識されたのです。それ以来、全カリ運営センターは、この理念の具体化を目指すべく、全学を巻き込む教育改革運動の中心であり続けています。

その後、全カリ第2ステージとして、2010年度に言語教育科目、2012年度に総合教育科目の改革を行いました。そして2016年度から正課外活動をも組み込んだ“Rikkyo Learning Style (RLS)”（立教大学学士課程統合カリキュラム）が全学的に導入されたことを機に、全カリ第3ステージとして、リベラルアーツ教育をさらに深化させた学びの形をスタートさせました。RLSでは、残存していた学部（専門教育）と全カリ（教養教育）という区分を廃止し、全カリ運営センターと学部がより緊密に連携しあうことによって、両者が有機的に統合されるような工夫が凝らされています。この第3ステージ以降、カリキュラムの名称も学部科目として位置づけられるべく「全カリ」から「全学共通科目」に変更し、また、言語教育科目のコンテンツ教育導入に伴い、言語教育科目を「言語系科目」、総合教育科目を「総合系科目」に変更しました。

今後も全カリ運営センターは言語系科目と総合系科目からなる全学共通科目の構想及び運営ならびにグローバル教養副専攻の運営を担い、また学部やその他学内部局と協働しつつ、カリキュラムや科目を豊かに創造する場の主催者としての役割を担い、組織としての活動を進めていきます。

全学体制での全学共通カリキュラム運営センター支援

専任教員の科目担当ルールと一定の専任教員担当率の確保

全ての専任教員は、全学の合意に基づいて定められた担当ルールに従い、全学共通科目を担当します。そのため、所属学部等の教員であると同時に、全カリ運営センターの教員として、全ての学生に対して教育責任を負っています。

科目の企画提案の仕組みを整備

各教員が研究内容等に応じて、総合系科目で開講する講義形式の「コラボレーション科目」、演習形式の「立教ゼミナール発展編」の2種類の科目を企画・提案することができます。

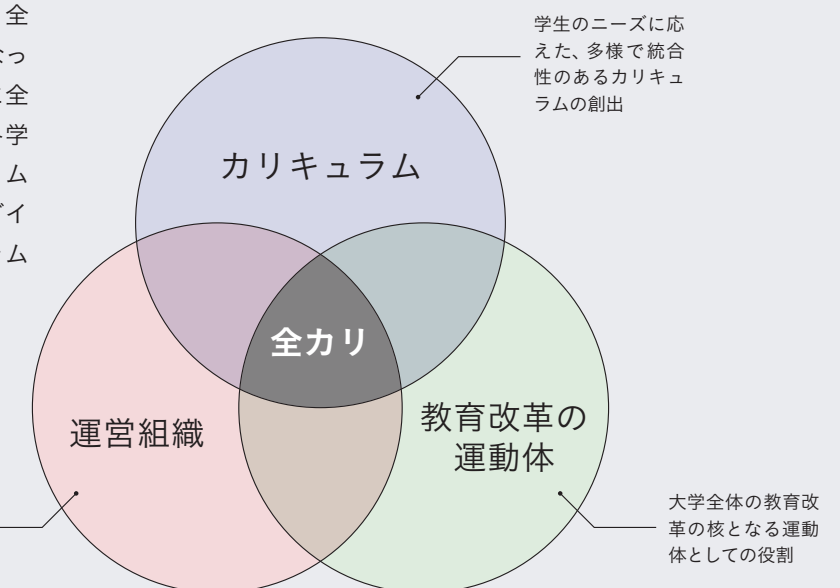
多様な学びの形態を用意

総合系科目では、通常の講義系科目に加え、外国語による総合系科目（F科目）や演習形式の科目（「立教ゼミナール」他）など、多様な学びの形態を用意しています。また、言語系科目での日本手話、総合系科目でのスポーツ実習など、科目の特性によりチームティーチング（1科目あたり2名の教員が常時参加）が可能となる仕組みを整備するなど、フレキシブルな担当形態を用意しています。

専属の事務体制を配置

全ての学部・学年を対象に展開する言語系科目、総合系科目、グローバル教養副専攻の編成と運営を保障するため、一般の教務事務とは別に専属の事務部局（全学共通教育事務室）を設置しています。全学共通教育事務室のスタッフは、全学共通科目のカリキュラムマネジメントや全カリ運営センターの組織マネジメント等を担っています。

全学共通科目の運営に全学部が関与する体制となっていることにより、常に全カリ運営センターと各学部の間ではカリキュラムの点検・改訂をめぐるダイナミックな還流システムが形成されています。



● 全学共通科目 | 言語系科目

多文化との共生を視野に入れた「異文化理解」を深めるとともに、異なる文化に属するさまざまな人々とコミュニケーションをとることができる「言語運用能力」の修得を目指しています。この理念から、全学共通科目の言語系科目では「英語を含む2言語必修」を採用し、英語(言語A)の他に、言語Bとしてドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語、日本語から1言語を選択して学びます。

ロシア語は理学部、経営学部、コミュニティ福祉学部福祉学科を除く学生が、日本語は文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修を除く外国人留学生のみの必修科目として選択できます。

多様な言語や文化が共存する社会の中で、複数の言語を用いて異文化間の交流ができる「複言語・複文化」を身につけるための教育に取り組んでいます。

言語系科目*1	構成	科目名	履修期
	言語A(英語)	[必修科目] ● 右頁参照	導入期(1年次春学期)～
		[自由科目] ● グローバル・コミュニケーション領域 ● グローバル・スタディーズ領域 ● グローバル・キャリア領域	形成期(1年次秋学期)～*2
	言語B	[必修科目] ● 右頁参照	導入期(1年次春学期)～
		[自由科目] ● 留学準備領域 ● プロジェクト領域*3 ● キャリア領域 ● アカデミック領域	形成期(1年次秋学期)～*2

*1 PEACEプログラム生(一部除く)、NEXUSプログラム生は日本語1言語のみ必修科目として履修する。 *2 1年次春学期から履修可能な科目あり。
*3 プロジェクト領域では、上記の言語に加えてポルトガル語(ブラジル)、日本手話、インドネシア語、タイ語、タガログ語、ベトナム語を展開。

詳細はこちら



言語A(英語)*1

[必修科目]

● 英語ディスカッション

少人数クラスで英語を用いてディスカッションすることで、今まで得た英語の知識を実際のコミュニケーションの場で使う経験を積み、相手を理解し、自分の意見を発信できるインタラクティブな英語力を身につけます。

● 英語ディベート

特定のテーマについて肯定側と否定側に分かれて議論することを通して理論的かつ批判的に考える力、情報を収集し活用する力、他者と建設的に議論する力、合理的な意思決定をする力を伸ばします。

● 英語プレゼンテーション

英語を総合的に使える力を育成します。さまざまな英語の資料を用いて自分の意見を論理的にまとめ、クラスメイトの前で英語を駆使して発表します。段階的に長いスピーチや高度なプレゼンテーションに挑戦します。

● 英語リーディング&ライティング1・2

さまざまな英文を効率的に読むためのリーディング・スキル(スキミング、スキニングなど)や、文章構成、パラグラフ、アウトライティングの作成方法を学び、より高度な内容、より長い文章を書く能力を養います。

● 英語eラーニング

PCを用いた授業でリーディング力とリスニング力を強化し、英語の基本スキルを伸ばします。インターネット環境を利用するため自宅からもアクセスでき、授業時間外の自主学習が可能です。自分のレベル、ペースにあった自律的な学習方法を身につけます。

*1 一定以上の英語力をもつ学生には、別途、上級科目(「上級英語」)が用意されています。(英語ディスカッション、英語ディベート除く) *2 「～語」は、それぞれドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語と読み替え。 *3 理学部・コミュニティ福祉学部福祉学科・経営学部は対象外。 *4 外国人留学生のみ選択可。

詳細はこちら



言語B(ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語*3、日本語*4)*2

[必修科目]

● ～語1

1クラス 20 名程度の学修環境で、一人ひとりの履修言語での表現力(CEFR A1 レベル程度)を養うことを目的とします。初歩的な語彙や語句を修得して、日常的なやり取りについて受け答えができるようになり、さらに、自己紹介をするなど、個人的なトピックを表現できるようになることを目指します。

● ～語2

1クラス 20 名程度の学修環境で、一人ひとりの履修言語での表現力(CEFR A2 レベル程度)を養うことを目的とします。基礎的な語彙や語句を修得し、かつこれまでに培った知識を用いて、複数の人がかかわる日常的なやり取りについて受け答えができるようになり、さらに、身近な話題について自分の意見を述べるようになることを目指します。

● ～語A

1クラス 40 名程度の学修環境で、履修言語の文法的な知識、初歩的な語彙や語句の修得を目指します。CEFR A1 レベル程度のテキストを読解し、聞き取れるよう、履修言語の理解力を総合的に養います。

● ～語B

1クラス 40 名程度の学修環境で、履修言語の文法的な知識、基礎的な語彙や語句の修得を目指します。CEFR A2 レベル程度のテキストを読解し、聞き取れるよう、履修言語の理解力を総合的に養います。

● 大学生の日本語A～D

大学における学修、生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指します。聴く・話す活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い、内容理解とともに、ディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につけます。

● 全学共通科目 | 総合系科目

価値観が多様化し社会の構造がますます複雑化する現代において、未来を的確に見据え問題を解決するため、自らの専門分野を深く追究するだけではなく、多くの分野に広く関心を持って学ぶことが求められています。

総合系科目はこのような広範な視野に立つことを

実現するために、導入期、形成期、完成期、それぞれの学びの段階にあわせて、専門領域の枠を超えた人間としての深い認識や価値観、総合的な判断力を養うために用意された「学びの精神」、「多彩な学び」、「スポーツ実習」の3つの科目群で構成されています。

総合系科目	科目群	カテゴリー	履修期
	● 学びの精神		導入期(1年次春学期)～
	● 多彩な学び	1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待 4. 心身への着目 5. 自然の理解 6. 知識の現場	形成期(1年次秋学期)*～
	● スポーツ実習	スポーツプログラム スポーツスタディ	導入期(1年次春学期)～

*多彩な学びで開講する「立教ゼミナール発展編」「RSLゼミナール」は完成期(3年次春学期～)の履修を推奨。

詳細はこちら



● 学びの精神(導入期:1年次春学期～)

大学での学びを始めるにあたり、大学で学ぶこと、また立教大学という場で学ぶことの意味について理解する科目群です。宗教、人権、大学といった立教大学らしい基本となるテーマを包含した科目を多く用意し、また、教員との対話、学生同士の協働作業などを通して大学の講義の受け方を体得します。自ら調べて考えて発信する、大学での主体的な学びの姿勢を身につけます。

● 多彩な学び(形成期:1年次秋学期～)

専門分野の枠を超えた幅広い知識と教養、総合的な判断力を養うことを目的とした科目群です。リベラルアーツ教育の主軸となるさまざまな主題に基づく、かつ今日的なテーマを扱う6つのカテゴリで構成しています。なお、「立教ゼミナール発展編」「RSLゼミナール」のみ、高度で発展的な学習を含む科目として、完成期(3年次春学期～)での履修を推奨しています。

● スポーツ実習(全期:1年次春学期～)

健康維持・増進を目的として、実践・講義を通して科学的知識、技能、またスポーツにまつわる文化的背景を学ぶ科目群です。実技を中心とした「スポーツプログラム」、理論の講義を取り入れた「スポーツスタディ」により、心身に関してバランスのとれた知性や判断力を養います。

総合系科目では、多様化するグローバル社会に向けて必要な知識・思考を身につけることを目的とした「外国語による総合系科目(F科目)」を開設しています。

● グローバル教養副専攻

詳細はこちら



グローバル教養副専攻は、すべての学生を対象として所属学部学科や専修の専門性に加えて、複数の分野にわたる知識をひとつのテーマに沿って修得し、多面的に物事を捉えて持続的に考える能力を養成するプログラムです。その目標は、「専門性に立つグローバル教養人の育成」です。具体的には、学生自身が目指す海外体験(留学を含む)につながる指定された科目を体系的に

学び、大学が認定する海外体験をふまえ、活動報告することが修了要件となります。所定の修了要件を満たした場合には、大学から修了証が発行されます。

グローバル教養副専攻の主なコースとして、全カリ運営センターが提供する総合系科目に基づいた“Arts & Science Course”、言語系科目に基づいた“Language & Culture Course”があり、その他、学部等が提供する“Discipline Course”もあります。

Arts & Science Course

- | | | |
|-------------------------------|---|-------------------------------|
| テーマ1 Global Humanity | テーマ4 Global Mind | テーマ7 Global Sports |
| テーマ2 Global Social Experience | テーマ5 Global Studies of Nature and Environment | テーマ8 Global Studies of Region |
| テーマ3 Global Art Experience | テーマ6 Global Citizenship | |

Language & Culture Course

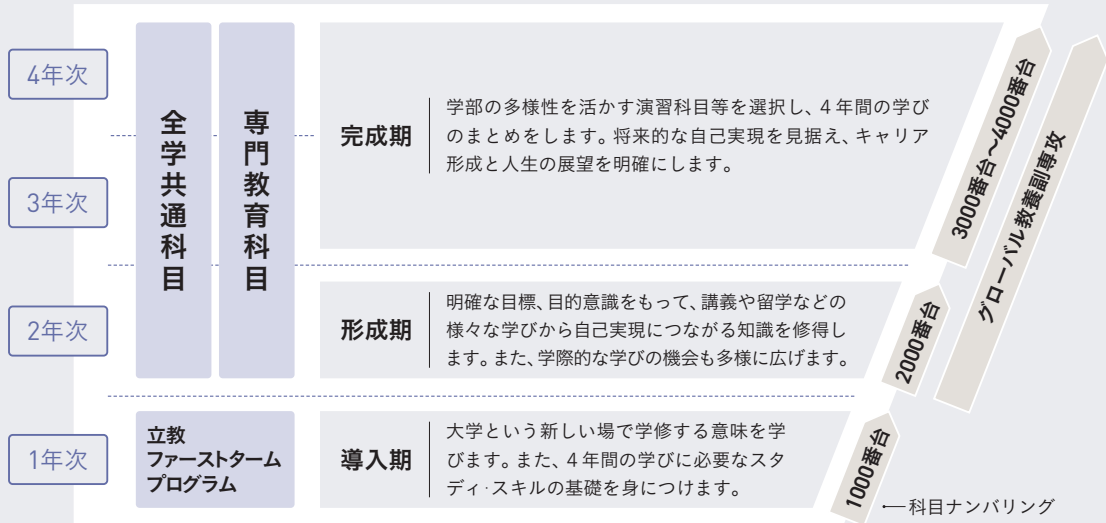
- | | | |
|----------------------------------|--|---------------------------------|
| テーマ1 Academic Studies in English | テーマ4 German Language & Culture | テーマ7 Chinese Language & Culture |
| テーマ2 World Issues in English | テーマ5 French Language & Culture | テーマ8 Korean Language & Culture |
| テーマ3 Communication in English | テーマ6 Spanish Language & Hispanic Culture | テーマ9 Russian Language & Culture |

Discipline Course

- | | |
|--|--|
| テーマ1 Teaching Japanese as a Foreign Language(日本語教育学) | テーマ4 International Cooperation(国際協力人材育成) |
| テーマ2 Data Science(データサイエンス) | テーマ5 Global Leadership(立教 GLP) |
| テーマ3 Experience Opportunities in Japan for International Students(留学生向けキャリアと日本語) | テーマ6 Japanese Studies in English Program |

● RIKKYO Learning Style と全カリ

立教の教育課程(カリキュラム)は、全ての学部において、全学共通科目と専門教育科目による「導入期」「形成期」「完成期」の3つの学修期によって構成され、段階的に学ぶ仕組みになっています。また、科目毎にどの学修期に学ぶことが適切な目安を示す科目ナンバリングが設定されています。



FD

全カリ運営センターでは、カリキュラムの形骸化を避け、社会の要請と学生の多様なニーズに応えるべく、定期的なカリキュラムの点検と改編を行っています。また、全カリ運営センターが全学共通科目の運営を担当

う組織であることから、シンポジウム、公開講演会、科目担当者連絡会、授業見学、セミナー等の開催を通して、テーマ研究や授業方法の改善にも主体的に取り組んでいます。

● 全カリシンポジウム過去のテーマ

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| ● 「外国語による総合系科目(F科目)」の成果と課題」 | ● 言語科目としての日本語 |
| ● 1年次必修科目「英語ディベート」における授業実践とその教育効果について | ● 「全カリ」の意義と役割を改めて考える |
| ● データサイエンス教育の現状と展望 | ● 「学びの精神」の課題と成果、これからの展望 |
| ● オンライン授業の可能性 | ● しょうがい学生にとっての外国語学習 |

広報

全学共通科目の特色ある科目や授業運営方法、また全カリ運営センターの教育革新運動の取り組み等を

学内外に広報することを目的とする広報活動を積極的に行っています。

● 大学教育研究フォーラム

大学教育に関する開かれた討議と情報交流の場となることを目指して、1995年より毎年度発行。

大学教育研究フォーラム過去のテーマ

- 環境学を学ぶ意義
- 今、ロシアを学ぶ
- 「英語の立教」の次のステージ
- ウィズ、アフターコロナ時代に求められる学びの姿
- 英語ディスカッションクラスの軌跡
- グローバル教養副専攻が目指すもの



● 全カリ Newsletter(ニュースレター)

現在の“全カリ”についてリアルタイムで旬な情報を発信する時事性の高い広報誌で、1995年より毎年度発行。

全カリ Newsletter過去のテーマ

- 「手話カフェ」を通して広がるつながり
- 全学共通カリキュラム運営センター新メンバー紹介
- 言語新カリキュラムの始動
- 全学共通科目総合系科目「F科目(導入)」を見学して
- 全カリ部長就任の挨拶
- FDプログラム「ミックス型授業の実施報告」
- グローバル教養副専攻に関するアンケート調査結果



● 全学共通科目 Web サイト

立教大学公式ホームページ(学外者向け)



<https://www.rikkyo.ac.jp/education/system/general/>

RIKKYO SPIRIT(学内者向け)



<https://spirit.rikkyo.ac.jp/zenkari/SitePages/index.aspx>



立教大学

全学共通カリキュラム運営センター